

2016年10月9日(日)朝10:10～
10月第2共同主日礼拝式説教

聖霊降臨節第22、役員会等
日本アライアンス庄原基督教会

説教題：小羊、さばきの封印を解く④

聖書：ヨハネの黙示録 8章1～6節

＜口語訳＞

新約聖書394頁

ヨハネの黙示録 8章1～6節

＜新共同訳＞

新約聖書461頁

ヨハネの黙示録 8章1～6節

＜新改訳第3版＞

新約聖書485頁

ヨハネの黙示8章1～6節＜塚本訳＞

新約聖書794頁

主題：主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」とありますように、神の御子イエス・キリスト様が、天使を通して(1)、長老・使徒ヨハネに与えた「神の国到来の奥義」の黙示で、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代に記録されたものと理解されています。
- ◇ヨハネ黙示録1章では、神の御子イエス・キリスト様の再臨信仰を励ましのことばと神の御子イエス・キリスト様の愛の思いの啓示、2章1～3章22節は、エペソ教会ほか7つのアジアの教会への手紙で、4章1～11節は、4つの生き物と24人の長老の讚美、5章1～14節は、「天の御座の父なる神の右手の封印の巻物」を開封できる屠られた仔羊(羔羊)礼拝と天の大讚美、6章1～17節は、「さばきの巻物」第1～6巻開封、7章1～17節は、144,000人の戦いと神の御座の前での大群衆の大讚美を示す挿入箇所です。
- ◇ヨハネの黙示録8章1～6節は、第7巻開封前の静寂と聖徒の祈りを助ける御使の祈りが示されています。

本論；

◇本日、ヨハネ黙示録第8章1～6節から主の使信に思い・心をとめます。

◆黙示録8章1～2節；ヨハネは、第7巻開封の時、静寂があつたことを記録をしています。

◇1～2節；塚本訳◆第7の封印(7つラツパ)

「1 かくて仔羊が(最後に)第七の封印を開いた時、およそ半時の間天が静かであった。(歌は止み、御使い達は固唾を飲んで次に起ころうとすることを待った。)

2 すると七人の御使いが神の前に立っているのを私は見た。そして彼らに七つのラツパが与えられた」と、ヨハネは神の御座の前の光景を啓示されました。

◇1～2節；「仔羊が(最後に)第七の封印を開いた時、およそ半時の間天が静かであった」、「(歌は止み、御使い達は固唾を飲んで次に起ころうとすることを待った。)」と、ヨハネは語り、「彼らに七つのラツパが与えられた」「七人の御使いが神の前に立っているのを私は見た」と、神が黙示された状況をも併せて語っています。

- ⇒「(歌は止み、御使い達は固唾を飲んで次に起ころうとすることを待った)半時の間の天の静寂」は、ヨハネにとって驚きでした。
- ⇒ヨハネ黙示録8章3節以降で黙示されたことを思うと、この「静寂」は、嵐の前の静けさで、
①「神のさばき」を各自が問い直す「静寂」で、
②また、「静寂」は、神の聖徒・キリスト者が、「神のことばへの静聴」のためでした。
- ⇒ヨハネ黙示録18章までの「神のさばき」の姿を思うと、「静寂」は、「神信仰」の本質です。
- ⇒詩篇46:10;「静まって、わたしこそ神であることを知れ」と、詩人は告白しています。
- ⇒神の聖徒、モーセ、イザヤらは、その職務を担う時、「静寂」を求められ、神不信の自分を悔改めるように導かれています。
- ⇒ガラテヤ2:20;「**生きている**のは、もはや、わたしではない。キリストが、わたしのうちに生きておられるのである。しかし、わたしがいま肉にあって**生きている**のは、わたしを愛し、わたしのためにご自身をささげられた神の御子を信じる信仰によって、**生きている**のである。」

◆ 黙示録8章3～6節 ; ヨハネは、神が聖徒の祈りを天に届くように、神の御使が助けるがようにして下さっていることを知りました。

◇ 3～6節 ; 塚本訳 ◆ ラツパを吹く準備

「3 するともう一人(他)の御使いが来て、(手に)金の香炉を持ち、香壇の前に立った。すると沢山の香が彼に与えられた。それは凡ての聖徒達の祈りのため(、これに力を添えるため)に、玉座の前の金の香壇に供えるのであった。

4 香(は焚かれた。そ)の煙が聖徒達の祈りのために御使いの手から神の前に立ち上がった。

5 (遂に祈りは聴かれた)——御使いが(再びその)香炉を取り、これに香壇の火を盛って(天から)地上に投げつけた。すると(たちまち恐ろしい)雷と轟と電光と(大)地震とが(地上に)起こった。

6 すると七つのラツパを持った七人の御使いが、(それを)吹く準備をした」と、ヨハネは神の御座の前の光景を啓示されました。

◇ 3～5節a; 「**凡ての聖徒達の祈りのため**」、
「**もう一人(他)の御使いが来て、(手に)金の香炉を持ち、香壇の前に立った。すると沢山の香が彼に与えられた**」、「**香(は焚かれた。そ)の煙が聖徒達の祈りのために御使いの手から神の前に立ち 上がった(遂に祈りは聴かれた)**」と、ヨハネは**黙示**を受けました。

⇒ヨハネ黙示録7章9～17節で、「**誰も数えることの出来ない(ほど)多くの群衆**」、「**凡ての国と種族と民と国語との中から集ま(った者)**」が**神讚美・神礼拝**をささげていましたが、多くは異邦人から**神の救い**に与った者たちで、**神の恵みの御座**は、解放されていました。

⇒併し、ここでは、ユダヤ人たちが伝統として来た「**神の幕屋**」が現れ、「**祈りの香**」が煙となって、立ち上り、**神の聖徒の祈り**を支えているのです。

⇒ユダヤ暦の第7月10日の贖罪日で、大祭司が年に一度、聖所の最奥、至聖所に入って、**神に罪の赦しを祈る日**でした。

⇒その役目を「**神の御使い**」が、果たしている。

⇒地でも、「**神の御使い**」は、**風を防ぎました**。

◇ 5節b～6節 ; 「御使いが(再びその)香炉を取り、これに香壇の火を盛って(天から)地上に投げつけた」、「(たち まち恐ろしい)雷と轟と電光と(大)地震とが(地上に)起こった」、「七つのラッパを持った七人の御使いが、(それを)吹く準備をした」と、「神の御使い」は、「静寂」を破る「香壇の火の投下」と「雷と轟と電光と(大)地震」を呼び覚まします。

⇒「香壇の火投下」は、「神の怒り」表現です。

⇔「神の怒り」は、7節以降のさばき予告です。

⇒この「神の怒り」を鎮めるお方は、「神の仔羊」のみです。

⇒ヨハネは、神の特別の恵みで、天の神の御座に近づき、「神の御使いの香・祈り」、「神の怒り・香壇の火投下」の両方を黙示されました。

⇒「神の御使い」が、聖所で、「香炉」をもって、歩いて祈っていますが、それは、「神の仔羊」の歩みを投影しているのです。

⇒しかも、地上の「神の教会」は、「神の交わり」でも、「神の宮・心の中の聖霊の宮」での「神との交わり・祈り」に既に、与っています。

結論；

- ◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」とありますように、神の御子イエス・キリスト様が、天使を通して(1)、長老・使徒ヨハネに与えた「神の国到来の奥義」の黙示で、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代に記録されたものと理解されています。
- ◇ヨハネ黙示録1章では、神の御子イエス・キリスト様の再臨信仰を励ましのことばと神の御子イエス・キリスト様の愛の思いの啓示、2章1～3章22節は、エペソ教会ほか7つのアジアの教会への手紙で、4章1～11節は、4つの生き物と24人の長老の讃美、5章1～14節は、「天の御座の父なる神の右手の封印の巻物」を開封できる屠られた仔羊(羔羊)礼拝と天の大讃美、6章1～17節は、「さばきの巻物」第1～6巻開封、7章1～17節は、144,000人の戦いと神の御座の前での大群衆の大讃美を示す挿入箇所です。
- ◇ヨハネの黙示録8章1～6節は、静寂と聖徒の祈りを助ける御使の祈りが示されています。

- ⇒**第1巻**は、**白馬**で、「**戦争**」、**第2巻**は、**赤馬**で「**内乱・内戦**」、**第3巻**は、**黒馬**で「**飢饉**」、**第4巻**は、**青ざめた馬**で「**死**」によるさばき宣告でした。
- ⇒これらの**神の終末のさばき**は、すでに地上で起こっていることではありますが、**ヨハネの黙示録**は、「**戦争、内戦、飢饉、死**」は、**神のさばき**であるとの認識を喚起しているのです。
- ⇒**第5巻の封印開封**は、「**祭壇の下の殉教者**」を、**ヨハネ**に見せて下さる出来事であり、彼らの叫びは、「**神の復讐**」を求めるものでした。
- ⇒**ヨハネ**も、私たち、地上の教会に属する者たち、聖書を**神のことばと信じる者たち**は、「**復讐**」は、**神のなさること**と信じています。
- ⇒**第6巻の封印開封**は、**地震、黒い太陽、血の月、天の星落下**という**天変地異**でした。
- ⇒「**地(上)の王、貴人、将軍、富豪、権力者、また凡ての奴隷、自由人は(みな恐れて)**」、「**洞穴や山の岩の間に身を隠し**」、「**自己保身**」に向かったのです。
- ⇒「**第7巻の封印開封**」前の**霊的イスラエル**の戦いと「**多くの群衆**」の「**大讚美**」がありました。

- ⇒ヨハネ黙示録8章1～2節では「**神の御使い**」が、「固唾を飲む」ほどの「**静寂**」が、**神の聖徒**のために与えられ、「**神の裁きの意味**」を問い、「**神のみことば**」を**静聴**する機会が与えられました。
- ⇒と同時に、**神の裁きの巻物・第7巻開封内容**を予告する「**神の怒り・香壇の火投下**」も、**黙示**されました。
- ⇒「**神の怒り**」を鎮めるのは、「**神の仔羊**」のみと、「**神の御使いの香炉の煙**」が、示します。
- ⇒小さな「**神の戦闘教会の聖徒の祈り**」も、「**神の御使いの香の煙・祈り**」に支えられて、**神**に届き、「**神の仔羊の祈り**」へ結びつけられます。
- ⇒私たちには、「**神の怒り**」を鎮める力はありませんが、「**神の仔羊の執成しの祈り**」を求め続けることは、できるのです。
- ⇒「**神のさばきの巻物開封**」の前の「**静寂**」が何時まで続くか、私たちは知りませんが、この大事な「**静寂**」を、日々の罪の悔い改めと共に、「**今あるは神の恵み**」との告白をもって、日々、「**神の恵みのみことば**」に**静聴**し、共に**神礼拝・神讚美**に生かされたいと願います。